

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月13日

【四半期会計期間】 第26期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 シップヘルスケアホールディングス株式会社

【英訳名】 SHIP HEALTHCARE HOLDINGS, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 CEO 古川 國久

【本店の所在の場所】 大阪府吹田市春日3丁目20番8号

【電話番号】 06(6369)0130

【事務連絡者氏名】 常務取締役 横山 裕司

【最寄りの連絡場所】 大阪府吹田市春日3丁目20番8号

【電話番号】 06(6369)0130

【事務連絡者氏名】 常務取締役 横山 裕司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第25期 第2四半期 連結累計期間	第26期 第2四半期 連結累計期間	第25期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	187,550	187,456	408,487
経常利益 (百万円)	5,869	6,309	16,478
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	3,155	3,625	9,410
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,260	4,406	9,782
純資産額 (百万円)	85,406	94,956	93,632
総資産額 (百万円)	231,743	247,759	263,540
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	62.57	71.65	186.32
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	36.6	37.4	34.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	6,917	10,019	15,311
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,433	6,020	5,709
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,073	1,066	3,543
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	41,973	51,590	48,661

回次	第25期 第2四半期 連結会計期間	第26期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	45.39	41.61

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当第2四半期連結累計期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は、以下のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、世界各国の景気回復が進む中、設備投資の改善や失業率の低下等に伴い、景気持ち直しの動きが続きました。

当社グループの属する医療業界におきましては、来年の診療報酬・介護報酬のダブル改定を控えるとともに、少子高齢化に伴う医療費の高騰や疾病構造の変化、最先端医療への対応等、中長期的視点での投資や変革が求められております。

このような経済状況の下、当社グループにおきましては、トータルバックプロデュース事業において下期に偏重している大型プロジェクト案件の一部が前倒して計上されるとともに、介護系メーカーも順調に推移いたしました。また、ライフケア事業や調剤薬局事業における業績の積み上がりも順調であったこと等により増益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は187,456百万円（前年同四半期連結累計期間比0.0%減）、営業利益は6,036百万円（前年同四半期連結累計期間比6.6%増）、経常利益は6,309百万円（前年同四半期連結累計期間比7.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,625百万円（前年同四半期連結累計期間比14.9%増）となりました。

セグメントごとの業績を示しますと次のとおりであります。

#### トータルパックプロデュース事業

トータルパックプロデュース事業におきましては、全体的に下期に偏重している病院完成案件の一部が期初計画より前倒しで計上されました。また、介護系メーカー製品の販売が順調に推移いたしました。

この結果、売上高は31,629百万円（前年同四半期連結累計期間比13.3%減）、セグメント利益（営業利益）は2,662百万円（前年同四半期連結累計期間比19.5%減）となりました。

#### メディカルサプライ事業

メディカルサプライ事業におきましては、前期に計上した大型M&Aに伴うアドバイザー費用の影響がなくなるとともに、昨年受託が集中したSPD施設の運用が改善され、順調な稼働状況となったこと等により増収増益となりました。

この結果、売上高は129,756百万円（前年同四半期連結累計期間比2.2%増）、セグメント利益（営業利益）は1,578百万円（前年同四半期連結累計期間比49.2%増）となりました。

#### ライフケア事業

ライフケア事業におきましては、入居率の改善が進んだこと、赤字施設の運営が改善したこと等により収益が改善いたしました。

この結果、売上高は11,168百万円（前年同四半期連結累計期間比6.4%増）、セグメント利益（営業利益）は406百万円（前年同四半期連結累計期間比24.4%増）となりました。

#### 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、M&Aや新規出店が奏功し、業績は順調に推移いたしました。

この結果、売上高は12,579百万円（前年同四半期連結累計期間比6.1%増）、セグメント利益（営業利益）は1,346百万円（前年同四半期連結累計期間比28.9%増）となりました。

#### その他

その他におきましては、動物病院の運営及び理化学機器の販売が概ね計画通り進捗いたしました。また昨年グループ入りした警備系会社の業績が期初より寄与いたしました。

この結果、売上高は2,322百万円（前年同四半期連結累計期間比35.7%増）、セグメント利益（営業利益）は143百万円（前年同四半期連結累計期間比174.6%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産は247,759百万円となり、前連結会計年度末と比べて15,781百万円減少いたしました。その主な要因は、建設仮勘定が3,846百万円、現金及び預金が2,966百万円、商品及び製品が1,882百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が26,599百万円減少したこと等によるものであります。

負債は152,803百万円となり、前連結会計年度末と比べて17,104百万円減少いたしました。その主な要因は、長期借入金が2,031百万円、電子記録債務が1,070百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が19,657百万円、未払法人税等が1,915百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は94,956百万円となり、前連結会計年度末と比べて1,323百万円増加いたしました。その主な要因は、配当金の支払により利益剰余金が3,035百万円減少した一方、その他有価証券評価差額金が740百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益により利益剰余金が3,625百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は37.4%（前連結会計年度末比2.7ポイント増）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは10,019百万円の収入（前年同四半期連結累計期間比3,101百万円収入増）となりました。これは主に、仕入債務が18,814百万円減少し、法人税等を4,348百万円支払った一方、売上債権が26,634百万円減少し、税金等調整前四半期純利益を6,265百万円計上したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは6,020百万円の支出（前年同四半期連結累計期間比1,587百万円支出増）となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入が178百万円、長期貸付金の回収による収入が177百万円あった一方、有形固定資産の取得による支出が4,651百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が1,609百万円あったこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,066百万円の支出（前年同四半期連結累計期間比5,139百万円支出増）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が7,300百万円あった一方、配当金の支払額が3,035百万円、長期借入金の返済による支出が4,755百万円あったこと等によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて2,928百万円増加し、51,590百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は171百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	50,834,700	50,834,700	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	50,834,700	50,834,700	-	-

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式であります。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	50,834,700	-	15,553	-	19,839

## (6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	6,354,100	12.50
株式会社コッコー	大阪府吹田市桃山台3-29-6	3,988,900	7.85
ORBIS SICAV (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	31,Z.A. BOURMICH, L-8070 BERTRANGE, LUXEMBOURG (東京都新宿区新宿6-27-30)	3,074,767	6.05
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	2,519,800	4.96
春日興産合同会社	大阪府吹田市桃山台3-29-6	1,400,000	2.75
古川 國久	大阪府吹田市	1,236,800	2.43
古川 幸一郎	大阪府吹田市	1,230,000	2.42
JP MORGAN CHASE BANK (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2-15-1)	1,167,243	2.30
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都新宿区新宿6-27-30)	1,150,340	2.26
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (中央区日本橋3丁目11-1)	1,120,833	2.20
計		23,242,783	45.72

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 5,892,700株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 2,490,100株

- 2 公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、次の通り株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期連結会計期間末現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況では考慮しておりません。

大量保有報告書 提出日	氏名又は名称	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
平成29年8月4日	オービス・インベストメント・ マネジメント・(ビー・ヴィー・ アイ)・リミテッド他1社	3,972,137	7.81
平成29年5月10日	エフエムアール エルエルシー	2,415,530	4.75
平成27年11月30日	株式会社三菱東京UFJ銀行他2社	2,526,800	5.09
平成27年11月20日	キャピタル・インターナショナル 株式会社他3社	2,140,500	4.31
平成27年11月6日	ブラックロック・ジャパン株式会社 他5社	2,157,900	4.35

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 235,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 50,594,400	505,944	-
単元未満株式	普通株式 4,800	-	-
発行済株式総数	50,834,700	-	-
総株主の議決権	-	505,944	-

## 【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) シップヘルスケア ホールディングス株式会社	大阪府吹田市春日3-20-8	235,500	-	235,500	0.46
計	-	235,500	-	235,500	0.46

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	49,444	52,410
受取手形及び売掛金	95,657	1 69,058
電子記録債権	1,920	1 2,658
リース投資資産	4,057	3,966
商品及び製品	11,669	13,551
仕掛品	1,328	1,992
原材料及び貯蔵品	840	880
その他	9,590	9,727
貸倒引当金	78	72
流動資産合計	174,430	154,174
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	14,972	14,724
土地	15,222	15,446
建設仮勘定	5,716	9,562
賃貸不動産（純額）	14,186	14,055
その他（純額）	3,385	3,288
有形固定資産合計	53,483	57,077
<b>無形固定資産</b>		
のれん	2 10,912	2 11,159
その他	1,296	1,172
無形固定資産合計	12,208	12,331
<b>投資その他の資産</b>		
長期貸付金	10,172	10,059
その他	15,793	16,716
貸倒引当金	2,563	2,600
投資その他の資産合計	23,402	24,175
固定資産合計	89,093	93,584
<b>繰延資産</b>		
株式交付費	16	0
繰延資産合計	16	0
資産合計	263,540	247,759

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	86,307	1 66,649
電子記録債務	16,192	1 17,262
短期借入金	2,020	1,620
未払法人税等	4,120	2,205
賞与引当金	1,905	1,884
その他	15,831	17,108
流動負債合計	126,377	106,730
固定負債		
長期借入金	36,146	38,177
退職給付に係る負債	2,548	2,617
資産除去債務	362	367
その他	4,472	4,909
固定負債合計	43,530	46,072
負債合計	169,908	152,803
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	15,553	15,553
資本剰余金	23,716	23,716
利益剰余金	51,059	51,649
自己株式	448	448
株主資本合計	89,881	90,470
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,459	2,199
為替換算調整勘定	47	32
退職給付に係る調整累計額	3	0
その他の包括利益累計額合計	1,503	2,231
非支配株主持分	2,247	2,253
純資産合計	93,632	94,956
負債純資産合計	263,540	247,759

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	187,550	187,456
売上原価	167,470	167,116
売上総利益	20,079	20,340
販売費及び一般管理費	1 14,417	1 14,303
営業利益	5,661	6,036
営業外収益		
受取利息	166	163
受取配当金	73	86
負ののれん償却額	120	116
貸倒引当金戻入額	42	1
その他	222	167
営業外収益合計	624	535
営業外費用		
支払利息	156	123
持分法による投資損失	7	1
為替差損	115	17
その他	136	119
営業外費用合計	416	261
経常利益	5,869	6,309
特別利益		
固定資産売却益	-	2
投資有価証券売却益	88	-
その他	0	0
特別利益合計	88	2
特別損失		
固定資産売却損	-	3
固定資産除却損	49	10
投資有価証券評価損	32	27
厚生年金基金脱退損失	208	-
その他	8	4
特別損失合計	298	46
税金等調整前四半期純利益	5,659	6,265
法人税、住民税及び事業税	2,498	2,372
法人税等調整額	63	208
法人税等合計	2,435	2,580
四半期純利益	3,224	3,684
非支配株主に帰属する四半期純利益	69	59
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,155	3,625

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	3,224	3,684
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	85	740
為替換算調整勘定	49	21
退職給付に係る調整額	0	2
その他の包括利益合計	35	721
四半期包括利益	3,260	4,406
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,191	4,353
非支配株主に係る四半期包括利益	69	52

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,659	6,265
減価償却費	1,268	1,215
のれん償却額	1,039	846
負ののれん償却額	120	116
持分法による投資損益(は益)	7	1
賞与引当金の増減額(は減少)	141	46
貸倒引当金の増減額(は減少)	43	2
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	44	52
受取利息及び受取配当金	240	249
支払利息	156	123
売上債権の増減額(は増加)	27,224	26,634
たな卸資産の増減額(は増加)	434	2,443
仕入債務の増減額(は減少)	24,382	18,814
リース投資資産の増減額(は増加)	17	91
その他	256	685
小計	10,595	14,244
利息及び配当金の受取額	236	246
利息の支払額	154	122
法人税等の支払額	3,759	4,348
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>6,917</b>	<b>10,019</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	121	136
定期預金の払戻による収入	126	178
有形固定資産の取得による支出	3,231	4,651
有形固定資産の売却による収入	5	3
無形固定資産の取得による支出	273	75
短期貸付けによる支出	16	22
短期貸付金の回収による収入	16	20
長期貸付けによる支出	0	2
長期貸付金の回収による収入	187	177
投資有価証券の取得による支出	4	5
投資有価証券の売却及び償還による収入	231	101
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	1,587	1,609
その他	235	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,433</b>	<b>6,020</b>

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	8,805	400
長期借入れによる収入	1,700	7,300
長期借入金の返済による支出	3,543	4,755
社債の償還による支出	15	-
配当金の支払額	2,717	3,035
非支配株主への配当金の支払額	40	46
リース債務の返済による支出	108	123
その他	6	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,073	1,066
現金及び現金同等物に係る換算差額	103	3
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	6,454	2,928
現金及び現金同等物の期首残高	35,518	48,661
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 41,973	1 51,590

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間

(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、新たに株式を取得したことにより、ユーロメディテック(株)及び(有)花梨薬局を連結の範囲に含めております。

当第2四半期連結会計期間において、連結子会社であるオーラムメディカル(株)は、同じく連結子会社であった(株)TMAを吸収合併しております。

## (四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	- 百万円	227百万円
電子記録債権	- 百万円	183百万円
支払手形	- 百万円	958百万円
電子記録債務	- 百万円	1,761百万円

## 2 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは、相殺表示しております。相殺前の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
のれん	11,493百万円	11,624百万円
負ののれん	581百万円	464百万円
差引額	10,912百万円	11,159百万円

## 3 保証債務

連結会社以外の会社の借入及び仕入債務に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
日本メディカルアライアンス(株)	6,870百万円	6,368百万円

## 4 当座貸越契約について

当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
当座貸越極度額の総額	31,940百万円	35,730百万円
借入実行残高	2,020百万円	1,620百万円
差引額	29,920百万円	34,110百万円

## (四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
給与手当	4,651百万円	4,797百万円
賞与引当金繰入額	732百万円	839百万円
退職給付費用	204百万円	223百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金	42,728百万円	52,410百万円
有価証券	45百万円	41百万円
計	42,774百万円	52,452百万円
預入期間が3か月超の定期預金	800百万円	861百万円
現金及び現金同等物	41,973百万円	51,590百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,717	55	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,035	60	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	トータル バック プロデュース 事業	メディカル サプライ 事業	ライフケア 事業	調剤薬局 事業	計				
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	36,490	126,992	10,497	11,858	185,838	1,711	187,550	-	187,550
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,228	966	14	915	3,125	13	3,139	3,139	-
計	37,719	127,959	10,511	12,773	188,964	1,725	190,689	3,139	187,550
セグメント利益	3,305	1,058	326	1,044	5,734	52	5,786	124	5,661

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物病院事業、理化学機器販売事業、セキュリティ事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 124百万円には、セグメント間取引消去 11百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 115百万円等が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の営業費用及び報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結累計期間において、小西共和ホールディング(株)株式を取得し、連結の範囲に加えております。

当該事象により「メディカルサプライ事業」セグメントにおいて、前連結会計年度の末日に比べ資産が42,607百万円増加しております。

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、小西共和ホールディング(株)株式を取得し、連結の範囲に加えております。

当該事象による「メディカルサプライ事業」セグメントにおけるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては1,066百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	トータル バック プロデュース 事業	メディカル サプライ 事業	ライフケア 事業	調剤薬局 事業	計				
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	31,629	129,756	11,168	12,579	185,134	2,322	187,456	-	187,456
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	720	532	91	1,192	2,537	42	2,579	2,579	-
計	32,349	130,289	11,260	13,772	187,671	2,364	190,036	2,579	187,456
セグメント利益	2,662	1,578	406	1,346	5,994	143	6,137	101	6,036

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物病院事業、理化学機器販売事業、セキュリティ事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 101百万円には、セグメント間取引消去 4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 101百万円等が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の営業費用及び報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

当第2四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	62円57銭	71円65銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,155	3,625
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	3,155	3,625
普通株式の期中平均株式数(株)	50,428,560	50,599,132

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月13日

シップヘルスケアホールディングス株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 北 山 久 恵 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 俣 野 広 行 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 花 谷 徳 雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシップヘルスケアホールディングス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シップヘルスケアホールディングス株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。